

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人
理事長 栗原 敏

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 21 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	131 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	618人	116人	632.4人	看護補助者	31人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	0人	8.0人	理学療法士	15人	臨床検査技師	101人
薬剤師	66人	0人	66.0人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	15人	その他	0人
助産師	16人	0人	16.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	983人	8人	987.8人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	27人	その他の技術員	99人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	206人
管理栄養士	16人	4人	19.3人	診療放射線技師	66人	その他の職員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	904.4人	1.2人	905.6人
1日当たり平均外来患者数	2,932.9人	55.6人	2,988.5人
1日当たり平均調剤数	入院 999剤	外来 659剤	合計 1,658剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	5人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。)	0人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	13人
腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	198人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 その他の高度の医療

医療技術名	抗CP20抗体(Rituximab)を用いた脾臓摘出術を行わないABO血液型不適合腎移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
ABO血液型不適合腎移植では、抗血液型抗体が関与した拒絶反応を予防するため、従来、術前後に脾臓摘出術(脾摘)が行われてきた。脾摘に伴う侵襲および長期安全性に関する懸念があり、脾摘を行わない新たな治療法としてRituximab術前投与が行われるようになり、当院でも実施している。			
医療技術名	自家骨髄細胞および末梢血単核球分画を用いた末梢性血管疾患への血管新生治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
従来の内科的、あるいは外科的治療が無効である末梢性血管疾患(慢性閉塞性動脈硬化症、Buerger病)に対して、細胞移植を用いた血管新生治療が先進医療として認可されている。当院でもこれまで自家骨髄細胞移植2例、末梢血単核球分画細胞移植8例を実施し、良好な成績を得ている。			
医療技術名	リソゾーム代謝異常症の生化学的診断ならびに遺伝子診断	取扱患者数	約70人
当該医療技術の概要			
ゴーシェ病、ファブリ病、ポンペ病、ムコ多糖症などの生化学的診断ならびに遺伝子診断を実施。また、当院にて上記疾患患者70名の酵素補充療法を定期的に行っている。			
医療技術名	脾臓がん治療におけるメシル酸ナフモスタット動注療法と塩酸ゲムシタピン併用療法-臨床第Ⅱ相試験-	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
薬剤誘導性のNF-κBを抑制することで脾臓がんに対する標準治療薬である塩酸ゲムシタピンの感受性を改善する治療法。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend point。			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺癌切除術	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
肺癌の根治手術が従来大きな開胸下に行われていたのに対し、小さな切開創から入れたカメラによる画像と、同じく小さな創から入れた器械により同等の手術を行う。手術の創が小さいのみならず、術後の疼痛が著しく軽く、術後の回復や社会復帰が速い。術後成績も優良である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下胸腺切除	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
従来前胸部の胸骨を大きく切開することで行われていた胸腺切除を、側胸部に数ヶ所の創のみから行う手術手技。術創が小さく、傷が目立たず、しかも回復が早い。			
医療技術名	難治気胸根治術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
高度の慢性肺疾患と肺機能低下のため根治治療が行えなかった自然気胸に対して、胸腔鏡を用いて行う高度な手術。術後早期に退院することができ、退院後も良好な経過を取ることができる。			
医療技術名	超音波気管支下生検術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
気管支周囲の占拠性病変の診断のために開発された新しい手技。気管支鏡装置に超音波診断機を組み込み、気管～気管支壁を介して超音波のガイド下に針を刺し、組織の生検を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
従来では、開胸・開腹により、大動脈の血流を遮断し、人工血管置換術による治療法しか手立てが無かった胸腹部大動脈瘤に対し腹部内臓分枝にカバースtentやステントによる枝を付け、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	遠位弓部大動脈瘤に対する頸動脈バイパス術を併施したステントグラフト内挿術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた遠位弓部大動脈瘤に対し、頸動脈バイパス術を併施することにより、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	MRI-based patient-specific jigsを用いた人工膝関節置換術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
人工膝関節置換術において、個々の患者に対して術前に下肢のMRIを撮像し、専用のソフトを用いて3次元的な術前計画を立てた後に、通常の骨切除器械を固定するピンの位置を誘導する鋳型を大腿骨、脛骨それぞれに作製する。術中にその鋳型を用いることにより、極めて高い精度で骨切りを行うことができる。			

医療技術名	Onyx液体塞栓物質LDを用いた脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
国内で施設限定で使用可能な液体塞栓物質を用いて、より安全な治療を施行している。			
医療技術名	頭蓋内ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
今後、認可になる予定の頭蓋内ステントを用いて、広頸の脳動脈瘤塞栓術を施行。			
医療技術名	世界最小径硬性鏡を用いた神経内視鏡手術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
世界最小径硬性鏡 Oi Handy-Proを用いて、第3脳室底開窓術、脳室内腫瘍手術、脊髄髄膜瘤手術を行うことにより、低侵襲かつ高画質画像により、正確な手術をすることができる			
医療技術名	MRIによる胎生期診断	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
MRIにより胎内診断を行うことにより、胎生期水頭症、脳腫瘍、二分脊椎等の疾患の病態を正確に把握することができ、さらに新生児科、泌尿器科等と協力し、いち早く出生後の治療に結びつけることができる			
医療技術名	イリザロフ型小型創外固定器による拘縮の治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
手指用の小型を創外固定器を用いて、少ない侵襲で拘縮解除が可能である画期的な方法			
医療技術名	頭蓋顔面先天異常症例における上・下顎骨切り	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
頭蓋顔面先天異常では、組織低形成と以前の手術侵襲による瘢痕形成により、難易度の高い上・下顎骨切りが必要とされることが少なくない。			
医療技術名	頭蓋縫合早期癒合症に対する骨移動を伴う頭蓋形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
術後の後戻りをなくし、少ない侵襲で確実な手術効果を得るため、骨延長器を併用して早期に頭蓋形成術を施行する。			
医療技術名	上肢麻痺に対する経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	89人
当該医療技術の概要			
上記内容にて体系化した世界初の手法 外来患者1200人			
医療技術名	失語症に対するfMRIを用いた経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
上記内容にて体系化した世界初の手法			
医療技術名	SPECT統計画像解析に基づいた高次脳機能障害のリハビリテーション	取扱患者数	68人
当該医療技術の概要			
上記手法にて外来リハビリを施行している			
医療技術名	超音波ガイド下神経ブロック	取扱患者数	170人
当該医療技術の概要			
上肢または下肢の神経ブロックを超音波ガイド下に専用針(超音波可視針及び神経刺激針)にて行い、場合によっては持続カテーテル挿入し術後鎮痛にも使用する。			
医療技術名	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
大腸腫瘍に対して、従来のEMRによる内視鏡治療では対応できない病変に対して行われる治療			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	56人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	41人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	107人	・原発性胆汁性肝硬変	56人
・全身性エリテマトーデス	116人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	10人
・再生不良性貧血	19人	・混合性結合組織病	6人
・サルコイドーシス	59人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・特発性間質性肺炎	3人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	74人	・網膜色素変性症	78人
・特発性血小板減少性紫斑病	67人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	8人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	123人	・神経線維腫症	118人
・大動脈炎症候群	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	69人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	27人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	12人	・ライゾーム病	80人
・クローン病	48人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5人
・悪性関節リウマチ	0人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	75人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	19人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	11人
・後縦靭帯骨化症	51人	・肥大型心筋症	33人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	7人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	2人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	4人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	0人	・黄色靭帯骨化症	21人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	83人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	膵臓癌に対する癌幹細胞/樹状細胞の融合細胞をもちいた新規癌治療法の開発.	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	100万円	補・委 土屋文化振興財団
2	膵癌における癌免疫療法の開発	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	50万円	補・委 日本イーライリリー研究助成金
3	進行膵臓がんに対する免疫化学療法	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	300万円	補・委 財団法人がん研究振興財団
4	膵癌アジュバンド療法による患者選択	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	100万円	補・委 三井生命厚生事業財団 医学研究助成
5	医学と工学の癒合による自己幹細胞由来腎臓再生法の実現化	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	820万円	補・委 文部科学省科研費、新学術課題
6	カルシウムチャンネルを標的とした二次性副甲状腺機能亢進症治療基盤の構築	横山 啓太郎	腎臓・高血圧内科	120万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
7	BMP4の糸球体血管係蹄発生と尿細管成長維持における役割	宮崎 陽一	腎臓・高血圧内科	50万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
8	異種胎児の後腎組織を足場としたヒト腎臓再生法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	90万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
9	CD26に基づく難治性糸球体腎炎の治療応用への基礎的研究	小林 政司	腎臓・高血圧内科	150万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
10	破骨細胞阻害因子ノックアウトマウスのリン調節の解明	大城戸 一郎	腎臓・高血圧内科	60万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
11	IgA腎症をはじめとする糸球体腎炎の発症の進展におけるLIGHTの役割の解明	上田 裕之	腎臓・高血圧内科	160万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
12	透析患者の冠動脈石灰化の組織学的検討	吉田 啓	腎臓・高血圧内科	30万円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
13	核内レセプターの新規機能解析と構造情報に基づいた線維化疾患治療法の開発	横山 啓太郎	腎臓・高血圧内科	1000万円	補・委 文部科学省ターゲットタンパク研究
14	高齢者における薬物性腎障害の調査	細谷 龍男	腎臓・高血圧内科	150万円	補・委 厚生労働省科学研究費

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
15	IgA腎症に関する多施設共同研究	川村哲也	腎臓・高血圧 内科	160万円	補・委 厚生労働省科学研究費
16	Calciphylaxisの診断・治療に関わる調査・研究	川村 哲也	腎臓・高血圧 内科	150万円	補・委 厚生労働省科学研究費
17	小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備	川村 哲也	腎臓・高血圧 内科	10万円	補・委 厚生労働省科学研究費
18	異種胎児を用いた純粋ヒト腎臓再生法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧 内科	400万円	補・委 上原記念生命科学財団
19	ポリアミンとエリスロポエチン抵抗性腎性貧血に関する臨床研究	丸山 之雄	腎臓・高血圧 内科	200万円	補・委 上原記念生命科学財団
20	循環器系シグナローム解析による疾患・病態解明のための基盤研究	吉村 道博	循環器内科	200万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金 循環器病研究委託事業
21	動脈硬化性疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	吉村 道博	循環器内科	100万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業
22	循環器疾患におけるアルドステロンの病態生理学的研究	吉村 道博	循環器内科	130万円	補・委 文部科学省科研費基盤研究C
23	心臓におけるアルドステロンのインスリンシグナルを介した生理及び病態生理作用の解明	名越 智古	循環器内科	100万円	補・委 文部科学省科研費若手
24	心筋におけるプロテインキナーゼCとカルモデュリン依存性キナーゼのカップリング	小武海 公明	循環器内科	50万円	補・委 文部科学省科研費基盤研究C
25	心筋虚血に対する選択的筋小胞体調節の意義と分子機序	本郷 賢一	循環器内科	117万円	補・委 文部科学省科研費基盤研究C
26	慢性閉塞性肺疾患におけるTGF- β によるオートファジー制御と老化	荒屋 潤	呼吸器内科	160万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
27	肺損傷と修復における細胞老化の役割とその分子機構の解明	桑野 和善	呼吸器内科	117万円	補・委 文部科学省科研費、基盤研究(C)
28	慢性閉塞性肺疾患の全身病態に対するエピジェネティクス制御の解明	中山 勝敏	呼吸器内科	182万円	補・委 独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

I 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
29	高齢者における生体防御機能低下の予防法と免疫老化レベルの標準化に関する研究	中山 勝敏	呼吸器内科	8万円	補 委 厚生労働省 長寿医療研究委託費
30	睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究	伊藤 洋	精神神経科	60万円	補 委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
31	脳内報酬系の制御機構からみたニコチン依存の病態解明と、制御機構に作用する新規依存治療薬の検討	宮田 久嗣	精神神経科	200万円	補 委 財団法人 喫煙科学研究財団研究助成金
32	てんかんの合併障害に対する治療の標準化に関する研究	須江 洋成	中央検査部	65万円	補 委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
33	精神科医療における発達精神医学的支援に関する研究	小野 和哉	精神神経科	80万円	補 委 厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
34	認知症の長期予後に関する疫学的研究	角 徳文	精神神経科	100万円	補 委 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
35	休職に至った就労者の職場復帰に影響を及ぼす背景因子について	中村 晃士	精神神経科	91万円	補 委 文部科学省研究費補助金若手研究(B)
36	小児気管支喘息重症発作に対するイソプロテノール持続吸入療法の検討：サルブタモール持続吸入療法を対照とした多施設共同盲検ランダム化比較試験	勝沼 俊雄	小児科	43,137,000円(うち間接経費8,627,000円)	補 委 厚生労働省 医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)
37	レンチウイルスベクターシステムによるクラッペ病遺伝子治療	小林 博司	小児科	1,820,000円(うち間接経費420,000円)	補 委 (独)日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(S)
38	マウスを用いた右心不全の機能解析とその特異性を加味した治療法の確立	浦島 崇	小児科	2,730,000円(うち間接経費630,000円)	補 委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
39	母体葉酸投与に起因する胎児遺伝子メチル化修飾の組織特異的全ゲノム解析	河野 淳子	小児科	1,820,000円(うち間接経費420,000円)	補 委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
40	神経皮膚症候群に関する調査研究	中川 秀己	皮膚科	110万円	補 委 厚生労働省科学研究費補助金
41	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究	本田 まりこ	皮膚科	100万円	補 委 厚生労働省科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
42	遺伝性ポルフィリン症の全国免学調査ならびに診断・治療法の開発に関する研究	上出 良一	皮膚科	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
43	ユキピタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究	中川 秀己	皮膚科	140万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
44	神経線維腫症1の各腫瘍における原因遺伝子とマーカー遺伝子の同定	延山 嘉真	皮膚科	143万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
45	水痘帯状疱疹ウイルス次世代ワクチン開発の基礎研究	伊東 秀記	皮膚科	208万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
46	ジエチルニトロソアミン誘発ラット肝発癌モデルにおけるT-614の効果	坂本 太郎	外科	10万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)
47	膵臓癌化学療法耐性克服に向けた基礎的研究	宇和川 匡	外科	200万円	補・委 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
48	チタン細繊維を用いた靭帯・骨接合部の再建	丸毛 啓史	整形外科	208万円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
49	原発性骨粗鬆症に対する骨密度・骨質同時評価によるテーラーメイド治療の確立	斎藤 充	整形外科	247万円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
50	Wnt非古典経路を阻害する新規骨代謝改善薬の分子メカニズムの解明	前田 和洋	整形外科	119万円	補・委 文部科学省 科学研究費 研究活動スタート支援
51	脳腫瘍に対する温度可逆性ポリマーを用いたドラッグデリバリーシステムの開発	常喜 達裕	脳神経外科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
52	発達期における骨格系と脳脊髄液循環動態の発生学的特性に基づく高次脳脊髄機能障害の治療および総合医療に関する研究	大井 静雄	小児脳神経外科部門	1,800万円	補・委 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
53	正常圧水頭症の疫学・病態と治療に関する研究	大井 静雄	小児脳神経外科部門	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
54	抗リン脂質抗体による子宮内胎児発育遅延の病態解明 ”IUGRモデルマウスを用いて”	田中 忠夫	産婦人科	200万円	補・委 東京都産婦人科医会 おぎゃー献金基金
55	精神・神経疾患研究開発費	田中 忠夫	産婦人科	70万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
56	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	田中 忠夫	産婦人科	70万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
57	科学研究費 若手研究B 卵巣癌腹膜播種の分子生物学的機構 解明と予後予測プログラムの構築	矢内原 臨	産婦人科	117万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)
58	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立	颯川 晋	泌尿器科	30万円	補・委 厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
59	ホルモン抵抗性前立腺癌に対する遺伝子治療の開発	清田 浩	泌尿器科	208万円	補・委 文部科学省研究補助金 基盤研究C
60	SNDIの前立腺癌における生物学的意義の解明と治療への応用	木村 高弘	泌尿器科	156万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究(B)
61	前立腺癌における癌幹細胞同定と解明	三木 淳	泌尿器科	208万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究(B)
62	新規膀胱癌マーカー蛋白質プリペラキンの尿細胞診への応用と膀胱癌における機能解析	佐々木 裕	泌尿器科	208万円	補・委 文部科学省研究補助金 若手研究(B)
63	骨髄損傷ラットを用いた切迫性尿失禁に対するA型ボツリヌストキシン膀胱内注入療法の新規開発	古田 昭	泌尿器科	100万円	補・委 日本損害保険協会助成金
64	網膜ジストロフィにおける遺伝子異常と疾患表現型の相関研究	林 孝彰	眼科	900,000円 (間接経費: 270,000円)	補・委 科学研究費補助金 基盤研究(C)
65	輝度情報処理のダイナミズムと蓋明のメカニズムの解明	堀口 浩史	眼科	600,000円 (間接経費なし)	補・委 科学研究費補助金 特別研究員奨励費
66	人工中耳粘膜移植とドラッグデリバリーシステムの融合による新しい鼓室形成術式の研究	小島博己	耳鼻咽喉科	70万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
67	弛緩部型中耳真珠腫の発症・進展機序の解明と予防・治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
68	立体内視鏡とステレオナビゲーションの重畳表示画像を用いた鼻副鼻腔術式の研究	鴻 信義	耳鼻咽喉科	110万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
69	組織再生工学を用いた人工鼓膜の作成と中耳真珠腫の病態解明	田中 康広	耳鼻咽喉科	120万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
70	エピジェネティック解析に基づく慢性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略の開発	吉川 衛	耳鼻咽喉科	140万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
71	好酸球性副鼻腔炎の病態解明-制御性T細胞とIL-17産生性T細胞の関与について-	浅香 大也	耳鼻咽喉科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 若手 (B)
72	真菌、特にAlternariaの自然免疫抑制効果について-樹状細胞を用いた実験-	和田 弘太	耳鼻咽喉科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 若手 (B)
73	立体画像表示を用いた内視鏡下鼻内手術トレーニングシステムの開発	飯村 慈朗	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 若手 (B)
74	培養細胞シートを用いた中耳粘膜再生の試み-移植用シートの開発とその臨床応用-	山本 和央	耳鼻咽喉科	70万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 若手 (B)
75	FMRI、NIRSの結果から考える経頭蓋磁気刺激による失語症改善促進の研究	安保 雅博	リハビリテーション科	208万	補・委 科学研究費補助金 基盤研究 (B)
76	リハ実施は移植神経幹細胞の生着率・分化に影響し、脳卒中後の麻痺回復を促進するか	安保 雅博	リハビリテーション科	190万	補・委 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
77	新たなマウス肺高血圧モデルの作成とRNA干渉を利用した治療法の開発	上園 晶一	麻酔部	195万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
78	吸入麻酔薬による興奮の分子機構の解明	安井 豊	麻酔部	104万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究 (B)
79	麻酔薬ポストコンディショニングにおける心筋ミトコンドリア保護効果に関する研究	三尾 寧	麻酔部	182万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
80	がん性疼痛モデルにおける鎮痛薬長期髄腔内投与の有用性	上園 晶一	麻酔部	190万円	補・委 私立大学経常費補助金 (特別補助)
81	がんの診断治療用光学機器の開発	加藤 智弘	内視鏡科	180万円	補・委 厚生労働省がん研究助成金
82	拡大内視鏡による消化器がんの早期発見診断法の確立に関する研究	郷田 憲一	内視鏡科	100万円	補・委 厚生労働省がん研究助成金
83	低侵襲的低周波超音波脳血栓溶解法の効果増高に関する臨床応用基盤研究	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	7,150万円 (うち間接経費1,650万円)	補・委 厚生労働科学研究費

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
84	急性脳梗塞治療における経頭蓋超音波脳血栓溶解装置の実用化	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	2,940万円	<input checked="" type="radio"/> 補 <input type="radio"/> 委 科学技術振興機構

合計 84 件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Clinical and Experimental Immunology 2009; 156 (2) 344-352	Antigenic stimulation with cytochrome P450 2J expressed in mouse hepatocellular carcinoma cells regulates host anti-tumour immunity.	Homma S, Koido S, Sagawa Y, Suzuki H, H, Takahara A, Tajiri H et al.	消化器・肝臓 内科
2	Immunotherapy 2009 1 49-62	Cancer immunotherapy by fusions of dendric cells and tumor cells	Koido S, Hara E, Homma S, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
3	Clinical and Developmental Immunology 2009:ID657369, 1-13	Canser Vaccine by Fusions of Dendritic and Cancer cells.	Koido S, Hara E, Homma S, Namiki Y, Ohkuma T, Jianlin Gong, Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
4	Journal of Biomedicine and Biotechnology 2010:ID752381: 1-12	Antigen-Specific Polyclonal Cytotoxic T Lymphocytes Induced by Fusions of Dendritic Cells and Tumor Cells.	Koido S, Homma S, Hara E, Namiki Y, Ohkusa T, Jianlin Gong, Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
5	Mov Disord 2010; 25: 167-71.	Visual hallucinations and altered visual information processing in Parkinson disease and Dementia with Lewy bodies.	Kurita A, Murakami M, Takagi S, Matsushima M, Suzuki M.	神経内科
6	Clinical Neurology and Neurosurgery 2009; 111: 551-3.	Diffusion-weighted imaging of encephalopathy related to idiopathic hypereosinophilic syndrome.	Yu Kono, Yasuhiko Itoh.	神経内科
7	Nucl Med Biol. 2009;36:623-9.	Multipoint analysis of reduced 125I-meta-iodobenzylguanidine uptake and norepinephrine turnover in the hearts of mice with MPTP-induced parkinsonism.	Fukumitsu N, Suzuki M, Fukuda T, Kiyono Y.	神経内科
8	Sleep Med. 2010;11:100-1.	Follow-up PET studies in case of idiopathic REM sleep behavior disorder.	Miyamoto T, Orimo S, Miyamoto M, Hirata K, Adachi T, Hattori R, Suzuki M, Ishii K.	神経内科
9	川崎市医師会医学会誌 2009; 26: 61-4.	川崎市の眼科開業医における糖尿病網膜症の管理状況: 1996年と2007年のアンケート結果の比較.	大野 敦, 伊東克彦, 大島康男, 太田明雄, 小花光夫, 栗田 正.	神経内科
10	日本臨牀2009;67. Suppl4: 532-5.	パーキンソン病の性機能異常.	持尾聡一郎, 仙石錬平, 河野 優, 岡 尚省.	神経内科
11	内科 2009;103 (6):1075-80.	特集 Emergency実践ガイド. 失神.	岡 尚省.	神経内科
12	日本臨牀2009;67 (Suppl 4):194-8.	パーキンソン病-基礎・臨床研究のアップデート. 検査・診断 自律神経障害とその機能検査法 心血管系.	岡 尚省.	神経内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
13	日本臨牀2009 ; 67. Suppl 4 : 536-9.	嗅覚障害. その他, 非運動症状, VI. 治療上の問題点と対策. パーキンソン病-基礎・臨床研究のアップデート	仙石錬平.	神経内科
14	第2回関東脳核医学研究会記録集. 23-5 .	神経内科領域 フィルムリーディング 錐体外路系疾患.	鈴木正彦.	神経内科
15	Clin J Am Soc Nephrol 2010;539-44.	Glomerular density in renal biopsy specimens predicts the long-term prognosis of IgA nephropathy.	Tsuboi N	腎臓・高血圧内科
16	Kidney Int 2010;77:743-5.	The hypothesis that bone turnover influenced FGF23 secretion.	Ohkido I	腎臓・高血圧内科
17	Nephrol Dial Transplant. 2010;25:1360-2.	Anxiety for the influenza of the patient with dialysis: choice of the HD/PD combination therapy.	Yokoyama K	腎臓・高血圧内科
18	Am J Surg Pathol 2010;34:262-70.	Granular Swollen Epithelial Cells: A Histologic and Diagnostic Marker for Mitochondrial Nephropathy.	Kobayashi A	腎臓・高血圧内科
19	Nephrol Dial Transplant 2010;25:1007-8.	Persistent alpha-Klotho (α-Kl) expression in the parathyroid glands of patients with secondary hyperparathyroidism.	Ohkido I	腎臓・高血圧内科
20	Internal Medicine 2010;49:89-94	Effect of fenofibrate on uric acid metabolism and urate transporter 1.	Uetake D	腎臓・高血圧内科
21	J Clin Invest 2009;119:1477-88	Glucocorticoid protects rodent hearts from ischemia/reperfusion injury by activating lipocalin-type prostaglandinD synthase-derived PGD2 biosynthesis.	Tokudome S	腎臓・高血圧内科
22	Biochem Biophys Res Commun 2009;385:330-5.	Integration of human mesenchymal stem cells into the Wolffian duct in chicken embryos.	Fukui A	腎臓・高血圧内科
23	Clin Nephrol 2009;72:274-5.	Sodium-sensitive variability of the antiproteinuric efficacy of RAS inhibitors in outpatients with IgA nephropathy.	Suzuki T	腎臓・高血圧内科
24	Nephrol Dial Transplant 2009;24:3900-1.	Prescribing peritoneal dialysis in each patient with uremic toxins as the treatment marker.	Yokoyama K	腎臓・高血圧内科
25	Exp Physiol. 2009;94:847-55.	Dihydropyridine- and voltage-sensitive Ca ²⁺ entry in human parathyroid cells.	Yokoyama K	腎臓・高血圧内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
26	Nephron Clin Pract 2009;112:c9-15.	Biological effects of electrolyzed water in hemodialysis.	Nakayama M	腎臓・高血圧 内科
27	Perit Dial Int 2009;29:528-35.	Novel low-Na peritoneal dialysis solutions designed to optimize Na-gap of effluent: kinetics of Na and water removals.	Nakayama M	腎臓・高血圧 内科
28	Europace	Impact of pulmonary vein isolation on the autonomic modulation in patients with paroxysmal atrial fibrillation and prolonged sinus pauses.	Miyanaga S, Yamane T, Date T, Tokuda M, Aramaki Y, Inada K, Shibayama K, Matsuo S, Miyazaki H, Abe K, Sugimoto K, Mochizuki S, Yoshimura M.	循環器内科
29	Circ J	Infiltration of Macrophages Through the Atrial Endocardium of Inflammation-Induced Rats - Contribution of Fractalkine-	Date T, Yamashita T, Sekiguchi A, Iwasaki Y, Aizawa T, Yamane T, Aramaki Y, Komukai K, Taniguchi I, Yoshimura M	循環器内科
30	Hypertens Res	Telmisartan predominantly suppresses cardiac fibrosis, rather than hypertrophy, in renovascular hypertensive rats.	Kawai M, Hongo K, Komukai K, Morimoto S, Nagai M, Seki S, Taniguchi I, Mochizuki S, Yoshimura M.	循環器内科
31	J. Exp. Med	Cardiac 12/15 lipoxygenase-induced inflammation is involved in heart failure.	Kayama Y, Minamino T, Toko H, Sakamoto M, Shimizu I, Takahashi H, Okada S, Tateno K, Moriya J, Yokoyama M, Nojima A, Yoshimura M, Egashira K, Aburatani H, and Komuro I	循環器内科
32	J Cardiol	Significantly lower incidence of early definite stent thrombosis of drug-eluting stents after unrestricted use in Japan using ticlopidine compared to western countries using clopidogrel: A retrospective comparison with western mega-studies.	Ishikawa T, Nakano Y, Endoh A, Kubota T, Suzuki T, Nakata K, Miyamoto T, Murakami M, Sakamoto H, Imai K*, Mochizuki S, Yoshimura M, Mutoh M	循環器内科
33	Eur Heart J	Severe coronary spasm occasionally detected by coronary computed tomography.	Ito K, Ogawa T, Yoshimura M.	循環器内科
34	J Cardiovasc Electrophysiol	Is the Isolation of the Pulmonary Vein Completed?	Matsuo S, Yamane T, Yamashita S, Tokuda M, Yoshida H, Date T, Yoshimura M.	循環器内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
35	Molecular Biology of the Cell	Vascular Endothelial-Cadherin Stabilizes at Cell-Cell Junctions by Anchoring to Circumferential Actin Bundles through α - and β -Catenins in Cyclic AMP-Epac-Rap1 Signal-activated Endothelial Cells.	Noda K, Zhang J, Fukuhara S, Kunimoto S, Yoshimura M, Mochizuki N	循環器内科
36	Europace	Prospective randomized comparison of a steerable versus a non-steerable sheath for typical atrial flutter ablation.	Matsuo S, Yamane T, Tokuda M, Date T, Hioki M, Narui R, Ito K, Yamashita S, Hama Y, Nakane T, Inada K, Shibayama K, Miyanaga S, Yoshida H, Miyazaki H, Abe K, Sugimoto K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
37	Rinsho Ketsueki. 2009 Nov;50 (11):1601-6.	Fractionated administration of gemtuzumab ozogamicin for refractory acute myeloid leukemia.	YAHAGI Y, USUI N, YAMAGUCHI Y, DOBASHI N, YANO S, TAKEI Y, SUGIYAMA K, TAKAHARA S, SAITO T, MINAMI J, KOBAYASHI T, KAMIYAMA Y, MORIKAWA T, AIBA K.	腫瘍・血液内科
38	Ann. Hematol. 2009 Jul;88 (7):703-4.	A case of primary esophageal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma with a numerical abnormality of 18q21 detected by fluorescence in situ hybridization.	Yano S, Usui N, Dobashi N, Yahagi Y, Takahara S, Sugiyama K, Ogasawara Y, Saito T, Minami J, Kobayashi T, Nikaido T, Takeuchi K, Aiba K.	腫瘍・血液内科
39	Annu Rev Pathol. 5:77-98. 2010.	Fibrogenic reactions in lung disease	Araya J, Nishimura SL	呼吸器内科
40	J Am Geriatr Soc. 57 (8):1453-7. 2009.	A Randomized, Single-Blind Study of Lansoprazole for the Prevention of Exacerbations of Chronic Obstructive Pulmonary Disease in Older Patients.	Sasaki T, Nakayama K, Yasuda H, Yoshida M, Asamura T, Ohru T, Arai H, Araya J, Kuwano K, Yamaya M.	呼吸器内科
41	難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成21年度研究報告書 223-228	IPFにおける上皮細胞老化について	荒屋潤、皆川俊介、野尻さと子、弓野陽子、小島淳、沼田尊功、原弘道、河石真、中山勝敏、桑野和善	呼吸器内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
42	Apoptosis Science Publishers, New hampshire, USA, pp421~ 436, 2009	Apoptosis in lung diseases Modern Insights Into Disease	Kuwano K, Nakayama K, Araya J.	呼吸器内科
43	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2010 Feb; 298 (2) ;L131-8. Epub 2009 Nov 13.	Amphiregulin attenuates bleomycin- induced pneumopathy in mice.	Fukumoto J, Harada C, Kawaguchi T, Suetesgu S, Maeyama T, Inoshima I, Hmada N, Kuwano K, Nakanishi Y.	呼吸器内科
44	Respirology 2009 Sep; 14 (7) :1027-34. Epub 2009 Aug 2	Carbocisteine inhibits oxidant- induced apoptosis in cultured human airway epithelial cells.	Yoshida M, Nakayama K, Yasuda H, Kubo H, Kuwano K, Arai H, Yamaya M.	呼吸器内科
45	J Am Geriatr Soc. 2009 Aug; 57 (8) :1453-7. Epub 2009.	A randomized, single-blind study of lansoprazole for the prevention of exacerbations of chronic obstructive pulmonary disease in older patients.	Sasaki T, Nakayama K, Yasuda H, Yoshida M, Asamura T, Ohru T, Arai H, Araya J, Kuwano K, Yamaya M.	呼吸器内科
46	産業精神保健 2009; 17 (4) : 215-21.	激変する職場環境—普遍的課題は何か.	中山和彦.	精神神経科
47	老年精神医学雑誌 2009; 20 (7) : 744-9.	認知症の食行動.	品川俊一郎.	精神神経科
48	心療内科 2009; 13 (4) : 306- 13.	新規抗うつ薬の作用.	忽滑谷和孝, 中山和彦.	精神神経科
49	日本臨床 2009; 67 (8) : 1469-74.	不眠症の診断・治療・連携ガイドライ ン.	山寺亘, 伊藤洋.	精神神経科
50	老年精神医学雑誌 2009; 20: 125-32.	【老年精神医学の臨床最前線】高齢者 の睡眠・リズム障害 - Update 高齢者 睡眠障害の薬物療法 転倒予防の観点 から.	小曾根基裕, 伊藤洋.	精神神経科
51	日本薬物脳波学会雑誌 2009; 10 (1) : 13-20.	睡眠薬による平衡機能への影響 最も 有効な転倒防止策は何か?	小曾根基裕, 大淵敬 太, 佐藤幹, 青木公 義, 三井こず恵, 原田 大輔, 青木亮, 林田健 一, 山寺亘, 石井正 則, 伊藤洋, 中山和彦.	精神神経科
52	Depression Frontier 2009; 7 (2) : 140-8.	女性の境界パーソナリティ障害 BPD における性差の視点から.	小野和哉, 中山和彦.	精神神経科
53	美田誠二編. 得意になる解 剖生理. 東京: 照林社 2009; 148-51.	自我の発達と防衛機制.	門倉真人, 中山和彦.	精神神経科
54	池田学責任編集. 専門医の ための精神科臨床 リュミ エール12 前頭側頭型認知 症の臨床. 東京: 中山書 店. 154-62.	前頭側頭型認知症の食行動異常.	品川俊一郎.	精神神経科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
55	Mol Genet Metab 2009; 97: 272-277	Clinical and genetic study of Japanese patients with type 3 Gaucher disease.	Tajima A, Yokoi T, Ariga M, Ito T, Kaneshiro E, Eto Y, Ida H.	小児科
56	Curr Opin Hematol 2009; 16 (1) : 20-26	WHIM syndrome: congenital immune deficiency disease.	Kawai T, Malech HL	小児科
57	BMC Res Notes. 2009; 2: 54.	Large scale genotyping study for asthma in the Japanese population.	Imada Y, Saito H, Matsumoto K, Akazawa A, Katsunuma T, Ebisawa M, et al.	小児科
58	Br J Dermatol 2009; Apr 29.	Development and validation of a questionnaire measuring quality of life in primary caregivers of children with atopic dermatitis (QPCAD).	Kondo-Endo K, Ohashi Y, Nakagawa H, Katsunuma T, Ohya Y, Masuko I.	小児科
59	Exp Eye Res 2009; 89: 200-208	Antitumor activity of TMPyP4 interacting G-quadruplex in retinoblastoma cell lines.	Terao Y, Akiyama M, Yuza Y, Yanagisawa T, Yamada O, Kawano T, Ida H, Yamada H.	小児科
60	日本小児栄養消化器肝臓学会誌. 2009; 23: 16-23	小児炎症性腸疾患におけるメサラジン(5-ASA)の使用実態,	豊田 茂, 河島尚志, 今野武津子, 香坂隆夫, 清水俊明, 米沢俊一, 鍵本聖一 他	小児科
61	てんかん研究 2009;27:3-11.	小児難治性てんかんにおけるトピラマートの部分発作と全般発作に対する有用性	浜野晋一郎, 折津友隆, 南谷幹之, 田中学, 吉成聡, 菊池健二郎, 松浦隆樹	小児科
62	Dis Esophagus 2009;22 (2) :169-76.	Results after laparoscopic Heller-Dor operation for esophageal achalasia in 100 consecutive patients.	Tsuboi K, Omura N, Yano F, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
63	Surg Today 2009;39:647-51.	The advantages and disadvantages of a Roux-en-Y reconstruction after a distal gastrectomy for gastric cancer.	Hoya Y, Mitsumori N, Yanaga K.	外科
64	Am Surg 2009;75 (2) :148-51.	Interim results of nutritional support through a button-type jejunostomy after total gastrectomy.	Shinohara T, Fujita T, Suzuki Y, Sano Y, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
65	Ann Surg 2009;249:353-4	Major depressive disorder as an occult risk factor for postoperative cardiac complications.	Fujita T.	外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
66	Hepato-Gastroenterology 2009;56:1629-32	Where is the best surgical incision for laparoscopic anterior resection.	Kawahara H, Kobayashi T, Watanabe K, Kobayashi S, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
67	Jikei Med J 2009;56(1):11-7.	Sentinel node navigation surgery for early malignant tumor of the duodenum.	Mitsumori N, Nimura H, Takahashi N, Watanabe A, Sasaki T, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
68	J Gastrointest Surg 2009;13:1636-42.	Negative impact of blood transfusion on recurrence and prognosis of hepatocellular carcinoma after hepatic resection.	Shiba H.	外科
69	Anticancer Res 2009;29(10):3995-4004.	Doxycycline induces apoptosis in PANC-1 pancreatic cancer cells.	Shiba H.	外科
70	Anticancer Res 2009;29:3173-8.	Combination chemotherapy of nafamostat mesilate with gemcitabine for pancreatic cancer targeting NF-kappaB activation	Uwagawa T.	外科
71	Ann Oncol 2009;20:239-43.	A phase I study of full-dose gemcitabine and regional arterial infusion of nafamostat mesilate for advanced pancreatic cancer.	Uwagawa T.	外科
72	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 2009;19(4):345-347.	Comparison of anchoring capacity of mesh fixation devices in ventral hernia surgery.	Misawa T.	外科
73	J Hepato-Biliary-Pancr Surg 2009;16:786-791.	Minimizing intraoperative bleeding using a vessel-sealing system and splenic hilum hanging maneuver in laparoscopic splenectomy.	Misawa T.	外科
74	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2010;16(1) 40-4, Feb	Video-assisted thoracic surgery for recurrent primary spontaneous pneumothorax in reoperated chests.	Akiba T, Marushima H, Hiramatsu M, Hideki Matsudaira, Nakanishi K, Takeyama H, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
75	Eur J Cardiothorac Surg 2010;37(4):824-6.	Unilateral thoracoscopic subtotal thymectomy for the treatment of stage I and II thymoma.	Odaka M, Akiba T, Yabe M, Hiramatsu M, Matsudaira H, Hirano J, Morikawa T.	外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
76	Ann Thorac Surg 2009;88(4):1358-60.	T. Anomalous systemic arterial supply to separate lingular and basal segments of the lung: an anatomic consideration.	Hiramatsu M, Iwashita M, Inagaki T, Matsudaira H, Hirano J, Odaka M, Nakanishi K, Okabe M, Morikawa T.	外科
77	Surgery Today 2009;39(10):844-847.	Importance of preoperative imaging with 64-row three-dimensional multidetector computed tomography for safer video-assisted thoracic surgery in lung cancer.	Akiba T, Marushima H, Harada J, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
78	Surg Today 2009;39(6):544-7.	Temporary claviclectomy approach for plexiform neurofibroma of the first intercostal nerve.	Akiba T, Ishiyama M, Marushima H, Nojima K, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
79	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2009;5(2):123-125.	Small Symptomatic Pericardial Diverticula Treated by Video-Assisted Thoracic Surgical Resection.	Akiba T, Marushima H, Masubuchi M, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
80	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2010;16(1):40-4, Feb.	Video-assisted thoracoscopic surgery for non-small cell lung cancer in patients on hemodialysis.	Akiba T, Marushima H, Hiramatsu M, Matsudaira H, Nakanishi K, Takeyama H, Kobayashi S, Morikawa T.	外科
81	J Vasc Surg 2009;49:1024-28.	A comparison between standard and high density Resilient AneuRx in reducing aneurysm sac pressure in a chronic canine model	Kanaoka Y, Ohki T.	外科
82	血管外科症例検討会雑誌 2009;28:152-158.	慢性解離性胸腹部動脈瘤に対して血管内治療が奏功した一例	金岡祐司	外科
83	日本消化器外科学会誌 2009;42(5):546-50.	小腸穿孔を生じたアレルギー性肉芽腫性血管炎の1例	前田剛志	外科
84	整形・災害外科 2010;53(1):49-52.	Patient-specific templating法を用いた人工膝関節置換術	丸毛啓史, 黒坂大三郎	整形外科
85	Osteoporosis International 2010;21:655-666.	Raloxifene ameliorates detrimental collagen cross-link formation and bone strength in rabbits with hyperhomocysteinemia.	Saito M, Marumo K, Soshi S, Kida Y, Ushiku C, Shinohara A.	整形外科
86	Bone 2010;46:1170-1179.	Comparison of effects of alfacalcidol and alendronate on mechanical properties and bone collagen cross-links of callus in the fracture repair rat model.	Saito M, Shiraishi A, Ito M, Sakai S, Hayakawa N, Mihara M, Marumo K.	整形外科

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
87	Osteoporosis International 2010 ; 21 : 195-214.	Collagen cross-links as a determinant of bone quality: a possible explanation for bone fragility in aging, osteoporosis, and diabetes mellitus.	Saito M, Marumo K.	整形外科
88	Surgical Neurology	A rabbit model for efficacy evaluation of endovascular coil materials.	Ebara M, uki Y, Murayama Y, Saguchi T, Abe T, et al.	脳神経外科
89	Neurosurgery	Endovascular treatment of experimental aneurysms using a combination of thermoreversible gelation polymer and protection devices.	Takao H, Mirayama Y, uki Iishibshi T, Ebara M, Irie K, Abe T, et al.	脳神経外科
90	Neurologia medico-chirurgica	New surgical technique to secure the bone strut during anterior cervical corpectomy and fusion : Kusabi fixation technique.	Tani S, Homma T, Uchikado H, Nagashima H, Isoshima A, Ohhashi H, Abe t, et al.	脳神経外科
91	Neurologia medico-chirurgica	Syrinx disappearance following laminoplasty in cervical canal stenosis associated with chiari malformation.	Kato N, Tanaka T, Nagashima H, Arai T, Hasegawa Y, Tani S, Abe T, et al.	脳神経外科
92	Journal of Neurosurgery Pediatrics Vo. 3, 2009	Embryo-pathogenetic surgico-anatomical classification of dysraphism and surgical outcome of spinal lipoma: Nationwide multicenter cooperative study in Japan	大井静雄	小児脳神経外科部門
93	Journal of Hydrocephalus Vol. 1, No. 2, 2009	Special Treatment Modalities of Hydrocephalus based on the Various Cerebrospinal Fluid Dynamics	大井静雄	小児脳神経外科部門
94	Journal of Hydrocephalus Vol2, No. 2, 2010	A Proposal of "Multi-categorical Hydrocephalus Classification": MHC-Critical Review in 72, 576, 000 Patterns of Hydrocephalus	大井静雄	小児脳神経外科部門
95	Journal of Neuroendoscopy Vol. 1, No. 1, 2010	Frameless Free-hand Neuroendoscopic Surgery -Development of the Finest Rigid-rod Neuroendoscopy Model to Cope with the Current Limitations of Neuroendoscopic Surgery-	大井静雄	小児脳神経外科部門
96	Journal of Neuroendoscopy Vol. 1, No. 1, 2010	Health of Children Worldwide, Seeking God's Guidance!" Live surgeries carried out at graduate school hospitals in five Indian Metropolises (technical guidance on Neuroendoscopic Operation Live Surgery Course)	大井静雄	小児脳神経外科部門

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
97	Clinical Neuroscience Vo. 27 No12 2009	脳幹 基礎から臨床までupdate 脳幹と 臨床 脳幹と先天性奇形(解説/特集)	三輪点、大井静雄	小児脳神経外 科部門
98	小児外科 Vol. 41No. 7, 2009	二分脊椎研究最近の進歩	大井静雄	小児脳神経外 科部門
99	小児疾患診療のための病態 生理 Vol. 41, 2009	頭蓋内クモ膜嚢胞	大井静雄	小児脳神経外 科部門
100	小児科診療 Vol. 72, 2009	Dandy-Walker症候群	大井静雄	小児脳神経外 科部門
101	小児の脳神経 Vol. 34 No. 4, 2009	前頭縫合早期癒合症(三角頭蓋)の自 然歴と手術適応に関する前方視的多施 設共同調査	大井静雄	小児脳神経外 科部門
102	小児の脳神経 Vol. 34 No. 4, 2009	発達遅延を伴う前頭縫合早期癒合症 (三角頭蓋)の手術適応と治療成績— Oi-Nonaka Pervasive Development Disorder Chronology Score (ON-PEE Chronology Score)からみた手術適応の 決定と術前術後評価—	野中雄一郎、大井静雄	小児脳神 科部門
103	小児の脳神経 Vol. 34 No. 6, 2009	乳幼児水頭症の"Emergency"	野中雄一郎、大井静雄	小児脳神経外 科部門
104	小児の脳神経 Vol. 34 No. 6, 2009	グラフィックと図表でみる小児脳神経 外科の"Emergency"と専門医の対応： 小児脳腫瘍の"Emergency"	三輪点、大井静雄	小児脳神経外 科部門
105	小児の脳神経 Vol. 35 No. 1, 2010	発達期における骨格系と脳脊髄液循環 動態の発生学的特性に基づく高次脳脊 髄機能障害の治療および総合医療に関 する研究	大井静雄	小児脳神経外 科部門
106	小児の脳神経 Vol. 35 No. 1, 2010	発達遅延を伴う前頭縫合早期癒合症に おけるOi-Nonaka Pervasive Development Disorder Chronology Score (ON-PEE Chronology Score)上の 変化	野中雄一郎、大井静雄	小児脳神経外 科部門
107	小児の脳神経 Vol. 35 No. 1, 2010	発達期における骨格系と脳脊髄液循環 動態の発生学的特性に基づく高次脳脊 髄機能障害の治療および総合医療に関 する研究：当院における2008年1歳未満 新規登録水頭症患者の報告	三輪点、大井静雄	小児脳神経外 科部門
108	日本臨床, 2010 Jan68	Clinical prognosis and therapeutic aspects in management of pediatric moyamoya disease	田母神令、大井静雄	小児脳神経外 科部門
109	日形会誌 29: 519-525. 2009	自家半切肋骨移植による鼻形成術— 80例の経験から—	荘司 弘、宮脇 剛司	形成外科
110	日頭顎顔会誌 25 (3) : 233-241. 2009	自転車事故による頭蓋・顔面多発骨折 例の検討	宮脇 剛司	形成外科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
111	日マイクロ会誌 22 (4) : 324-330. 2009	慢性腎不全・透析患者の頭頸部再建症例の検討	石田 勝大	形成外科
112	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2009;57:573-84	Beginning and development of surgery for acquired valvular heart disease in Japan.	Hashimoto K.	心臓外科
113	Interact Cardiovasc Thorac Surg 2009;8:431-4	Early postoperative aortic rupture following surgery for acute type A aortic dissection.	Kimura N, Tanaka M, Kawahito K, Yamaguchi A, Ino T, Adachi H.	心臓外科
114	Jikeikai Med J 2009; 56:43-6	Free-floating ball thrombus in the left atrium after mitral valve replacement.	Takizawa R, Kawahito K, Taguchi S, Matsumura Y, Kagawa H.	心臓外科
115	胸部外科 2009;62:433-41	ガイドラインに準じた大動脈弁置換術における人工弁選択の現状と将来.	坂本吉正.	心臓外科
116	日本小児循環器学会雑誌 2010 ; 26 : 49-53	ECC-Fontan術後の凝固・線溶系機能の経時的変化と抗凝固療法緩和についての検討.	宇野吉雅、森田紀代造、山城理仁、篠原玄、村松宏一.	心臓外科
117	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2009;15 (5) : 311-7	Myocardial Cyclic AMP Augmentation with High-Dose PDEIII Inhibitor in Terminal Warm Blood Cardioplegia.	Ko Y, Morita K, Nagahori R, Kinouchi K, Shinohara G, Kagawa H, Hashimoto K.	心臓外科
118	J Thorac Cardiovasc Surg 2010;139:174-80	Prevention of Ischemia/Reperfusion-induced Pulmonary Dysfunction After Cardiopulmonary Bypass With Terminal Leukocyte-depleted Lung Reperfusion.	Kagawa H, Morita K, Nagahori R, Shinohara G, Kinouchi K, Hashimoto K.	心臓外科
119	日集中医誌 2009 ; 16 : 191-5	保存的治療にて改善しえた広範囲大動脈内血栓症の一例.	中村賢、白鳥一明、岡田邦彦、橋本和弘.	心臓外科
120	Br J Cancer	Vitamin D receptor polymorphisms and prognosis of patients with epithelial ovarian cancer	Tamez S	臨床研究開発室
121	Oncol Rep	Mesenchymal to epithelial transition in the human ovarian surface epithelium focusing on inclusion cysts.	Okamoto S	産婦人科
122	ハイリスク妊娠の診療を極める	遷延分娩	大浦 訓章	産婦人科
123	日本受精着床学会雑誌 27 巻 1号 2010年	治療終結に関する不妊患者の意識調査	杉本公平、齋藤 幸代・高橋 絵理・黒田 浩・川口 里恵 橋本 朋子・林 博・矢内原 臨・大浦 訓章・田中 忠夫	産婦人科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
124	日本産科婦人科学会東京地方部会誌 59巻 1号 2010年	抗リン脂質抗体の関与が示唆された不妊症の1例	林博, 川口里恵, 高橋絵理, 橋本朋子, 杉本公平, 田中忠夫	産婦人科
125	永井書店	ハイリスク妊娠の診療を極める	大浦 訓章	産婦人科
126	Clin Cancer Res. 15:1417-27, 2009	Study Group.. Integrated Copy Number and Expression Analysis of Chemoresistant Ovarian Carcinomas	Etemadmoghadam D, Okamoto A, Urashima M et al.	産婦人科 分子疫学研究室
127	Br J Cancer 101:1957-60, 2009	Vitamin D receptor polymorphisms and prognosis of patients with epithelial ovarian cancer	Tamez S, Kazunori K, Yanaihara N, Tanaka T, Okamoto A, Urashima M	産婦人科 分子疫学研究室
128	Nature 463:899-905, 2010	The landscape of somatic copy number alteration across human cancer types	Beroukhir R, Okamoto A, Urashima M et al.	産婦人科 分子疫学研究室
129	Low Temp. Med 2009 ; 35(2) :23-8.	Comparison of the outcomes of magnetic resonance imaging-guided percutaneous cryoablation of renal tumors with those of partial nephrectomy.	Kishimoto K, Hatano T, Furuta N, Suzuki Y, Miki K, Egawa S, Harada J, et al.	泌尿器科
130	J Urol 2009;181(3) :1467-73.	Role of α 2-Adrenoceptors and Glutamate Mechanisms in the External Urethral Sphincter Continence Reflex in Rats.	Furuta A, Asano K, Egawa S, de Groat WC, Chancellor MB, Yoshimura N.	泌尿器科
131	Prostate. 2009;69(15) :1660-7.	A Novel Androgen-Dependent Prostate Cancer Xenograft Model Derived from Skin Metastasis of a Japanese Patient.	Kimura T, Kiyota H, Nakata D, Masaki T, Kusaka M, Egawa S.	泌尿器科
132	Int J Clin Oncology 2009;14:213-8.	Patterns of Failure and Influence of Potential Prognostic Factors after Surgery in Transitional Cell Carcinoma of the Upper Urinary Tract.	Shimomura T, Ohtsuka N, Yamada H, Miki J, Hayashi N, Kimura T, Kuruma H, Egawa S.	泌尿器科
133	J Natl Cancer Inst 2009;101(19) :1330-6.	Replication of Prostate Cancer Risk Loci in a Japanese Case-Control Association Study.	Yamada H, Kathryn L. Penney, Takahashi H, Katoh T, Kimura T, Egawa S, et al.	泌尿器科
134	Int J Urol. 2009;16(8) :664-9.	Lateral view dissection of the prostatic-urethral junction to reduce positive apical margin in laparoscopic radical prostatectomy.	Sasaki H, Miki J, Kimura T, Sanuki K, Miki K, Takahashi H, Egawa S.	泌尿器科
135	あたらしい眼科	光学部径7mm眼内レンズの白内障・硝子体同時手術における有用性	渡辺朗	眼科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
136	J Ocul Biol Dis Infor	Genetic analysis of typical wet-type age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy in Japanese population	Goto A, Akahori M, Okamoto H, Minami M, Terauchi N, Haruhata Y, Obazawa M, Noda T, Honda M, Mizota A, Tanaka M, Hayashi T, Tanito M, Ogata N, Iwata T.	眼科
137	Invest Ophthalmol Vis Sci	A novel haplotype with the R345W mutation in the EFEMP1 gene associated with autosomal dominant drusen in a Japanese family	Takeuchi T., Hayashi T., Bedell M., Zhang K., Yamada H., Tsuneoka H.	眼科
138	Otology Japan	ターナー症候群に合併した進行性難聴.	中山次久, 宮崎日出海.	耳鼻咽喉科
139	耳鼻咽喉科展望	当科における時間外救急に関する臨床的検討.	小森学, 関山尚美, 露無松里, 飯村慈朗, 重田泰史, 宇井直也, 波多野篤.	耳鼻咽喉科
140	耳鼻咽喉科展望会	両側同時性顔面神経麻痺で発症した小児Guillain-Barré症候群の1例.	小森学, 安藤裕史, 露無松里, 飯村慈朗, 重田泰史, 波多野篤.	耳鼻咽喉科
141	耳鼻咽喉科展望	Osler病の鼻出血に対するNBIおよび超音波凝固切開装置ソノサージを用いた凝固療法について.	元山智恵, 松脇由典, 大櫛哲史, 鴻信義, 加藤孝邦, 森山寛.	耳鼻咽喉科
142	Jikeikai Med J. 2009;56 (2) :31-6.	Repetitive Low-Frequency Transcranial Magnetic Stimulation Plus Speech Therapy over a Six-Month Period Improved Naming and Writing	Kakuda W, Abo M, Kaito N, Senoo A) (Tokyo Metropolitan University), Watanabe M.	リハビリテーション科
143	Neurocase. 2009;15:384-9.	Hyperlexia and ambient echolalia in a case of cerebral infarction of the left anterior cingulate cortex and corpus callosum	Suzuki T, Itoh S, Hayashi M, Kouno M, Takeda K	リハビリテーション科
144	J Rehabil Med. 2009;41:661-5.	Abnormal Regional Benzodiazepine Receptor Uptake in the Prefrontal Cortex in Patients with Mild Traumatic Brain Injury	Hashimoto K, Abo M.	リハビリテーション科
145	臨榮. 2009;115 (2) :201-4.	食品物性の違いによる嚥下内視鏡所見の検討	百崎良, 安保雅博, 平本淳1), 旗川陽子1) (1東京慈恵会医科大学附属第三病院), 草野みゆき) (東急病院).	リハビリテーション科
146	J Clin Rehabil. 2009;18 (8) :741-3.	IT技術を駆使した認知機能評価	橋本圭司.	リハビリテーション科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
147	Eur J Neurol. 2009; (17) :1-9.	Changes in regional cerebral blood flow in the right cortex homologous to left language areas are directly affected by left hemispheric damage in aphasic stroke patients:evaluation by Tc-ECD SPECT and novel analytic software	Uruma G, Kakuda W, Abo M.	リハビリテーション科
148	The Journal of Applied Research. 2009;9:119-22.	Function MRI activation in repetition task using block and event-related design	Abo M, Kasahara KI), Kakuda W, Senoo AI) (ITokyo Metropolitan University).	リハビリテーション科
149	The Journal of Applied Research. 2009;9 (4) :139-47.	Proteomic Assessment of Important Proteins for Motor Recovery in a Rat Model of Photochemically-Induced Thrombosis	Yamauchi H, Miyamura K, Abo M.	リハビリテーション科
150	脳卒中. 2009;31 (6) :502-7.	脳卒中リハビリテーションと首都圏における地域連携パス	安保雅博, 後藤杏里, 角田亘, 橋本圭司, 小林一成.	リハビリテーション科
151	日交通科協会誌. 2009;9 (1) :51-5.	脳卒中患者の自動車運転再開についての実態調査	武原格, 林泰史, 一杉正仁, 渡邊修, 安保雅博.	リハビリテーション科
152	Int J Neurosci. 2009; (120) :60-6.	Functional MRI-based therapeutic rTMS strategy for aphasic stroke patients:a case series pilot study	Kakuda W, Abo M, Kaito NI), Watanabe MI), Senoo AI) (ITokyo Metropolitan University).	リハビリテーション科
153	J Clin Rehabil. 2009;19 (1) :94-8.	Stiff Person症候群のリハビリテーションにおける筋弛緩剤と部分体重免荷歩行器訓練の有効性	佐々木信幸, 松本真由美I), 青木雄二I) (I東京都立墨東病院), 安保雅博.	リハビリテーション科
154	J Rehabil Med. 2009;42 (2) :179-81.	REVISED VERSION OF THE ABILITY FOR BASIC MOVEMENT SCALE (ABMS II) AS AN EARLY PREDICTOR OF FUNCTIONING RELATED TO ACTIVITIES OF DAILY LIVING IN PATIENTS AFTER STROKE	Tanaka T, Hashimoto K, Kobayashi K, Sugawara H, Abo M.	リハビリテーション科
155	日顎関節会誌 2009 ; 21 : 11-17.	高齢者顎関節症患者の治療後の症状改善の検討—若年者, 中年者 (39歳以下) との症型別比較—	伊介昭弘, 玉井和樹, 杉崎正志.	歯科
156	日顎関節会誌 2009 ; 21 : 18-23.	歯科医療従事者から収集した顎関節症治療に対する“Clinical Question”のアンケート解析—第20回日本顎関節学会学術大会参加者に対する予備調査—	木野孔司 (東医歯大), 杉崎正志, 湯浅秀道 (東海市民病院), 覚道健治 (大歯大).	歯科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
157	Liver Int 2009;29:47-54.	Lecithin: retinol acyltransferase protein is distributed in both hepatic stellate cells and endothelial cells of normal rodent and human liver.	Nagatsuma K, Hayashi Y, Hano H, Sagara H, Murakami K, Saito M, Matsuura T, et al	中央検査部
158	J Ethnopharmacol 2009;121:234-40.	Mechanisms of blood glucose-lowering of aqueous extract from stems of Kothala himbutu (Salacia reticulata) in the mouse.	Im R, Mano H, Matsuura T, Nakatani S, Shimizu J, Wada M.	中央検査部
159	Gastroenterology, 2009;136:1783-95.	Role of Transglutaminase 2 in Liver Injury via Cross-linking and Silencing of Transcription Factor Spl.	Tatsukawa H, Fukaya Y, Frampton G, Marthine FA, Suzuki K, Kuo TF, Matsuura T, et al.	中央検査部
160	Hepato Res 2009; 39: 93-105.	Pathological Role of CD44 on NKT cells in carbon tetrachloride-mediated liver injury.	Kimura K, Nagaki M, Matsuura T, Moriwaki H, Kakimi K.	中央検査部
161	Int J Oncol 2009;34:1433-48.	Three-dimensional culture using a radialflow bioreactor induces matrix metalloprotease 7-mediated EMT-like process in tumor cells via TGFβ1/Smad pathway.	Shibata S, Marushima H, Asakura T, Matsuura T, Eda H, Aoki K, et al.	中央検査部
162	Mol Med Report 2009, 2; 911-915.	Survivin is expressed in early hepatocellular carcinoma and surrounding hepatitis tissue.	Mamori S, Matsushima M, Matsuura T, Tajiri H.	中央検査部
163	Int J Oncol 2010;36:77-83.	Target chemotherapy of anti-CD147 antibody-labeled liposome encapsulated GSH-DXR conjugate on CD147 highly expressed carcinoma cells,	Matsudaira H, Asakura T, Aoki K, Searashi Y, Matsuura T, Nakajima H, et al.	中央検査部
164	医学検査 2009;58:252-256	運動負荷方式による呼吸・循環応答の相違-トレッドミルとエルゴメーターとの比較-	小野瀬志美, 池田勇一, 阿部郁朗, 鈴木政登, 海渡 健.	中央検査部
165	医学検査 2009; 58: 867-870.	当院での抗酸菌検査方法別検出率の比較検討.	坂本和美, 鶴川治美, 今井美保子, 石井敬子, 佐々木十能, 富永健司, 石井健二, 海渡健.	中央検査部
166	日本臨床検査自動化学会会誌 34:375-378. 2009	EIA法によるCA125測定値が非特異反応を呈した2症例血清の検討.	阿部正樹, 俵木美幸, 荒木早紀子, 高松久美子, 小池 優, 阿部郁郎, 海渡 健.	中央検査部
167	医学と薬学, 第62巻, 第3号, 491-499, 2009	ラテックス凝集比濁法によるナノピア KL-6エーザイ測定法の検討	高松久美子, 阿部正樹, 俵木美幸, 荒木早紀子, 古澤未緒, 阿部郁郎, 海渡 健.	中央検査部

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
168	医学検査, 第58巻, 第5号, 394-397, 2009	血小板低値検体を対象としたCELL-DYN Sapphireの基礎的検討	丹野純子, 神田俊, 吉田美雪, 栗原悦子, 小林清, 阿部郁朗, 海渡健	中央検査部
169	日本臨床検査自動化学会誌 34, 69-72, 2009.	蛍光酵素免疫測定法によるTRAb自動分析法の評価.	佐藤 亮, 阿部正樹, 阿部郁郎, 海渡 健.	中央検査部
170	日本検査血液学会雑誌. 2009, 10, 10-15	血幹細胞移植後にCD10, CD19陽性のHematogonesが出現した2症例.	岩瀬貴衣, 菱木光太郎, 丹野純子, 堂満憲一, 吉田 博, 海渡健	中央検査部
171	日本検査血液学会雑誌. 2009, 10, 16-20	核断片と思われる封入体様構造物を伴ったCD13, CD56陽性AML-cuplike.	菱木光太郎, 岩瀬貴衣, 丹野純子, 堂満憲一, 吉田 博, 石井幸子, 河野 緑, 海渡健.	中央検査部
172	Nephrology Dialysis Transplantation. 2009;24:504-11.	Changes in blood pressure before the development of nosocomial acute kidney injury.	Liu YL, Prowle J, Licari E, Uchino S, Bellomo R.	麻酔部
173	Nephrology Dialysis Transplantation. 2009;24:2739-44.	A comparison of observed versus estimated baseline creatinine for determination of RIFLE class in patients with acute kidney injury.	Bagshaw SM, Uchino S, Cruz D, Bellomo R, Morimatsu H, et al.	麻酔部
174	Critical Care Resuscitation. 2009;11:250-6.	Effects of saline or albumin resuscitation on standard coagulation tests.	Bellomo R, Morimatsu H, Presneill J, French C, Cole L, Story D, Uchino S, et al.	麻酔部
175	Critical Care Medicine. 2009;37:2576-82.	Discontinuation of continuous renal replacement therapy: a post hoc analysis of a prospective multicenter observational study.	Uchino S, Bellomo R, Morimatsu H, Morgera S, et al.	麻酔部
176	Journal of Anesthesia. 2009;23:198-202.	Transcutaneous PCO2 monitors are more accurate than end-tidal PCO2 monitors.	Hirabayashi M, Fujiwara C, Ohtani N, Kagawa S, kamide M.	麻酔部
177	ICUとCCU. 2009;33(8):639-43.	集中治療専従医の配置による気管切開症例への影響.	齋藤敬太, 内野滋彦, 岩井健一, 鹿瀬陽一, 岩谷理恵子, 瀧浪將典.	麻酔部
178	ペインクリニック 2009; 30:1597-1600.	痛みの詳細な問診が局所再発乳がんの発見に役立った2症例	平林万紀彦, 大友博之, 小島圭子, 北原雅樹.	ペインクリニック
179	麻酔 2009; 58; 971-975.	非癌性慢性疼痛に対する経口トラマドールの効果.	北原雅樹, 小島圭子, 花田真紀, 栗山陽子, 大村昭人	ペインクリニック

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
180	Gastrointest Endosc 2009; 69 (6) : 1129-34.	Pilot study for in vivo cellular imaging of the muscularis propria and ex vivo molecular imaging of myenteric neurons (with video).	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
181	Endoscopy 2009; 41 (7) : 598-602.	A pilot study of EUS-guided hot saline injection for induction of pancreatic tissue necrosis.	Imazu H, et al.	内視鏡科
182	Gastrointest Endosc 2009; 70 (2) : 240-5.	Ultrathin endoscopy versus high-resolution endoscopy for diagnosing superficial gastric neoplasia.	Toyoizumi H, et al.	内視鏡科
183	Gastrointest Endosc 2009; 70 (5) : 899-906.	Trimodal imaging endoscopy may improve diagnostic accuracy of early gastric neoplasia: a feasibility study.	Kato M, et al.	内視鏡科
184	Dis Esophagus 2009; 22 (5) : 453-60.	Magnifying endoscopy with narrow band imaging for predicting the invasion depth of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Goda K, et al.	内視鏡科
185	Gastrointest Endosc 2010; 69 (3) : 726-33.	Numerical analysis of the autofluorescence intensity of neoplastic and non-neoplastic colorectal lesions by using a novel videoendoscopy system.	Aihara H, et al.	内視鏡科
186	Arch Pathol Lab Med 2009; 133 (12) : 1981-4	Pigmented perivascular epithelioid cell tumor of the kidney.	Fukunaga M, Harada T.	病院病理部
187	Mol Genet Metab 2010; 100 (1) : 14-9	Prognostic factors for the late onset Pompe disease with enzyme replacement therapy: From our experience of 4 cases including an autopsy case.	Kobayashi H, Shimada Y, Narimiya N, Mori Y, Ikegami M, Mitsumori N, Yanaga K.	病院病理部
188	Jikeikai Med J 2009; 56 (4) : 57-62	Validity of the infrared ray method for sentinel node biopsy in gastric cancer.	Koyama T, Nimura H, Ikegami M, et al.	病院病理部
189	日画像医誌 2009; 27 (3) : 178-85	肝原solitary fibrous tumorの1例.	木村正, 入江健夫, 荻野展広, 成尾孝一郎, 三枝裕和, 大脇和彦, 岡本友好, 原田徹, 福田国彦.	病院病理部
190	胃と腸 2009; 44 (8) : 1295-312	【大腸SM癌内視鏡治療の根治基準をめぐって 病理診断の問題点と予後】 内視鏡摘除大腸SM癌の取り扱いをめぐって.	田中信治, 上野秀樹, 檜田博史, 渡邊聡明, 八尾隆史, 池上雅博, 斎藤裕輔, 味岡洋一.	病院病理部
191	慈恵医大誌 2009; 124 (3) : 113-26	大腸粘膜下層浸潤癌のリンパ節転移危険因子の検討.	小林裕彦, 池上雅博, 三戸部慈実, 浦島允佳.	病院病理部

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
192	慈恵医大誌 2010; 125 (1): 19-32	大腸粘膜下層浸潤癌のリンパ節転移危険因子の検討 特に脈管侵襲と簇出(budding)の比較検討.	石井宏則, 池上雅博, 小林裕彦, 三戸部慈 実, 鈴木麻予.	病院病理部
193	G. I. Res 2009; 17 (3): 241-8	【特殊光観察による内視鏡診断の最前線に迫る!】 大腸腫瘍性病変の診断におけるAFI, NBIの有用性を検討する.	斉藤彰一, 相原弘之, 二上敏樹, 荒川廣志, 田尻久雄, 池上雅博.	病院病理部
194	現代医 2009; 57 (2): 287- 93	医療の現場から 小腸アミロイドーシスの典型的画像所見について.	鈴木智貴, 桑原義之, 池上雅博, 他.	病院病理部
195	慈恵医大誌 2009; 124 (6): 279-303	心筋線維の動的形態平衡と特発性心筋症の形態発生に関する研究.	河上牧夫, 豊田智里, 岩淵馨, 原田徹, 鈴木 正章.	病院病理部

合計 195件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 森山 寛	
管理担当者氏名 (担当代表者)	診療に関する 諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 今出 進章	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		院長室 診療部署単位 〔 診療情報室 各科外来 各病棟 フィルム係他 〕	科別、入院外来別、年度別、 月別患者登録番号順、日付順 (記録の種類により異なる)
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	個々の項目別によるファイル (記録の種類により異なる)
	高度の医療の提供の実績	診療各科、管理課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	診療各科、管理課	
	高度の医療の研修の実績	診療各科、管理課	
	閲覧実績	管理課、業務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	診療各科	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	管理課、業務課、薬 剤部	
第規 一則 号第 一に 掲条 の 十 一 体 制 第 一 確 項 保 各 の 号 状 及 び 第 九 条 の 二 十 三	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全推進室及 び関係各部署	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全推進室	医療安全推進室「委員会」ファイル
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」 ファイル
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全推進室	医療安全推進室「管理」ファイル
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針

第一項	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	看護部 (患者相談窓口担当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
-----	------------------------------------	-------------------	---------------------------

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
	第一項各号及び第九條の二十三	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 感染対策室「感染対策委員会」ファイル
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室、感染対策室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
	第一項各号及び第九條の二十三	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策室ファイル
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院リスクマネジメントマニュアル
	第一項各号及び第九條の二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医薬品安全使用のための業務手順書「病棟部門・手術室部門」、 「外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
	第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針
	第一項各号及び第九條の二十三	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況(医療機器安全管理責任者書式-3)ファイル	
第一項各号及び第九條の二十三	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 医療機器に係る安全性情報等(医療機器安全管理責任者書式-4)ファイル	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 森山 寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長 今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長、 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長、 他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3 件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	3 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.4 %	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		22,862人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,831人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6,600人
	D：初診の患者の数		65,694人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理のための組織・体制 3. 医療に係る安全管理のための教員研修 4. 医療問題発生時の対応 5. 医療事故発生時の対応 6. 患者相談窓口の設置 7. 患者との情報共有 8. 附属4病院の連携強化（情報の共有）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： リスクマネジメント委員会 1. 医療事故防止対策の検討及び研究 2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討 3. 医療事故防止のための提言 4. 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版 5. 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染の防止 6. 医療安全の推進に関すること 7. スタッコール(院内救急)に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 3 回
・ 研修の主な内容： 1. リスクマネジメント基礎研修会 2. 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム 3. 転倒・転落予防のための勉強会 4. 褥瘡セミナー 5. 医療機器の安全使用のための講習会 6. BLSコース/ICLSコース 7. チーム医療構築ワークショップ 8. 派遣・委託職員対象リスクマネジメント研修会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 院長、医療安全管理部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施 2. ネットワークパソコンによる医療問題発生報告システムの運用 3. 緊急リスクマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 4. リスクマネジメント委員会及びフロアリスクマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底 5. 医療問題分析ツールRCA分析による根本原因の分析と対策立案 6. 問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 7. 医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施 8. 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 9. 所轄警察署への適切な報告 10. 異状死届出ガイドラインの整備とモデル事業への参画 11. 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無

⑦医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

有 無

- ・ 所属職員： 専任（8）名 兼任（1）名
- ・ 活動の主な内容：
 1. インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施
 2. 教職員への安全に関する教育・研修の企画、実施
 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言
 4. 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション
 5. 改善策実施後の評価
 6. リスクマネジメントマニュアルの整備・管理
 7. リスクマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること
 8. 医療安全連絡会議の運営に関すること
 9. 院内感染対策に関する連携

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための組織3. 院内感染対策のための教職員に対する研修4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 当該指針の閲覧7. 院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 菌検出状況報告と対策の検討2. 抗菌薬使用状況報告と対策の検討3. 感染に関する問題発生報告と対策の検討4. 血液体液汚染発生状況報告と対策の検討5. 感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討6. 感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 新型インフルエンザの感染対策2. 耐性菌の感染対策3. 抗菌薬適正使用について4. 手術部位感染対策5. 血管内留置カテーテル感染対策6. 研修医オリエンテーション：感染対策について7. 新入職看護師技術研修：標準予防策・針刺し事故防止8. 委託業者対象感染対策勉強会（新型インフルエンザ・ノロウイルス）	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また病棟などで、感染力の強い感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者に対応する体制となっている。2. 感染対策室は、日々の情報収集から介入が必要な病棟や診療科を対象として重点的にミーティングや勉強会を開催している。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無												
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年204回												
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>☆輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取り扱いを学ぶ (輸液、シリンジポンプの基本的な取扱方法と注意点について学ぶ)</p> <p>☆医療安全のためのモニタリングテクニック (心電図モニタの良くあるトラブル事例をはじめとし、基礎的なモニタリングノウハウを学ぶ)</p> <p>☆人工呼吸器の安全管理 (人工呼吸器を使用するにあたっての基礎知識と、トラブル事例を交えてのリスク回避)</p> <p>☆医療機器「医療ガス」 (病棟コンソールに設置されている各種医療ガスと高圧ボンベならびに付属品(レギュレータ)についての取扱、注意点を学ぶ)</p> <p>医療機器安全講習会 (開催回数、出席者数)</p> <table border="0" data-bbox="223 1131 1428 1344"> <tr> <td>① 放射線部</td> <td>19回 (前年比：+4回)</td> <td>(参加者：247名 前年比：+144名)</td> </tr> <tr> <td>② 中央検査部</td> <td>2回 (前年比：±0回)</td> <td>(参加者：96名 前年比：+70名)</td> </tr> <tr> <td>③ リハ科</td> <td>3回 (前年比：+1回)</td> <td>(参加者：41名 前年比：+21名)</td> </tr> <tr> <td>④ 臨床工学部</td> <td>180回 (前年比：+53回)</td> <td>(参加者：1767名 前年比：+272名)</td> </tr> </table> <p>総計：204回 (前年比：+58回) (参加者総数：2151名 前年比：+507名)</p> <p>内)「医療機器安全使用のための講習会」 14回 (前年比：-1回) (参加者：412名 前年比：+265名)</p>		① 放射線部	19回 (前年比：+4回)	(参加者：247名 前年比：+144名)	② 中央検査部	2回 (前年比：±0回)	(参加者：96名 前年比：+70名)	③ リハ科	3回 (前年比：+1回)	(参加者：41名 前年比：+21名)	④ 臨床工学部	180回 (前年比：+53回)	(参加者：1767名 前年比：+272名)
① 放射線部	19回 (前年比：+4回)	(参加者：247名 前年比：+144名)											
② 中央検査部	2回 (前年比：±0回)	(参加者：96名 前年比：+70名)											
③ リハ科	3回 (前年比：+1回)	(参加者：41名 前年比：+21名)											
④ 臨床工学部	180回 (前年比：+53回)	(参加者：1767名 前年比：+272名)											
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	<p>・ 計画の策定 (☑・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連(各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など)それぞれの部門に設置(配置)されている各種機器について、日常点検(始業点検、使用中点検、使用後点検)を行う。</p> <p>☆保守点検を実施している主な医療機器</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ</p>												

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
自主回収に関する院内広報状況

①診療連絡速報 (5回発行)

平成21年6月 NO. 21- (49) A

「植え込み型ペースメーカー自主回収」

平成21年9月 NO. 21- (93) A

「人工呼吸器取り扱い時の注意について」

平成21年9月 NO. 21- (92) A

「気管内チューブの自主回収について」

平成21年9月 NO. 21- (94) A

「体外式除細動器 (AED) の適切な管理について」

平成21年10月 NO. 21- (127) A

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (9月分)」

②診療連絡報 (8回発行)

平成21年10月 NO. 21- (129) B

「ガスボンベの取り扱い事故について」

平成21年10月 NO. 21- (152) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (10月分)」

平成21年12月 NO. 21- (170) B

「除細動器用使い捨てパドル自主回収の報告」

平成21年12月 NO. 21- (171) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (11月分)」

平成22年1月 NO. 21- (179) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (12月分)」

平成22年2月 NO. 21- (182) B

「在宅酸素療法における火気の取り扱いについて」

平成22年2月 NO. 21- (193) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (1月分)」

平成22年3月 NO. 21- (206) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告（2月分）」

③お知らせ（2回発行）

平成21年5月 NO. 21-（30）C

「手動式除細動器自主回収」

平成21年5月 NO. 21-（145）C

「心電図モニタのゾーン増設について」

④医療機器安全管理情報（3回発行）

平成21年10月

「酸素ポンペの基礎知識」

平成22年1月

「機器保管室の機能拡大」

平成22年3月

「圧力表示はPa（パスカル）の時代へ！！第1弾」